九月廿日南洲リヒホルム高舎ノ代理トシテ警察司ノ命ヲ受ケアヽワルドノマシ氏来ル

彼 拘留人ハ何人ニ托シテ帯刀ヲナスヤ

我 乃チ警察官ノ証人ヲ取調ヘ右リタル者ヲ以テ其人ニ依托シテ帯刀タシ

彼 乃チ股持紙タル拘留人中潮流ノ証人ノ証候ヲ虜ナリ去レハ乃チ拘留人ノ内自ラ道ヲ開アリ不向ノ者ハ便虜ナリト雖ト費刀ノ道ヲ得ル能ワス若拘留人警察官ニ一切引渡スヤ又ハ帯刀ヲ依托スルヤ

我 今度持紙ノモノハ悪ク帯刀造船ノモノトアラズ又ハ強ス特来ノ為メ実地証拠ノミ

開拓使

義ナレバ今回遠望ノ見込相立タル上ハ本後ハ直ニ商ヒ物産ノミヲ輸送スベシ新モ為服ガ
ミ於テ未ダ物品ヲ市場ニ陳ズル能ハザルノ故ニ依リテハ成ト得ベキ事ナリ

彼　今般持来ノ物品ハ其形狀ノ重宜ニ適セズ
ラレスル事アリヤ事柄ニト称スレバ
開港ノ上使役ノ人ヲ雇ヒ入ル費アリ
事柄ヲナスモノハ必ズ費ニ充ベキ為メ物
品ニ銀剤ノ利ヲ掛ケ賣柄ヲ為サルヲ得
ス
然スルニ一旦ニ然物品ヲ陳列シ充人ニ配賣
セシメタレバ銀剤元ノ利ヲ得ンニハ容易難
ナリ日本ノ物産ヲ事柄ニト称スレバ遠方
ノモノヲ事部スル為メ費ヲ必ズ地ニ設
シ置キ物産ノ物品ハ持行ノ外ナカルベ
シ

我　今回物産ヲ携帯シ見本ヲ陳列シ商ニ陳列セ
シハ南洋ニ遠スルト言トヲ賢列シ者ラ拘束
ノ用的ヲ立ルカ為ナリ毫モ用品ノ利ヲ論ル
ノ意ニ非ス

彼　今一見ノ上ニテ直ニ適宜ヲ賢別スルヲ得ス本
年直スルモノ明年賣捌ケザルヿアレバナリ

我　固ヨリ然リ数年間南洋ノ商況ヲ熟閲シテ
初テ去ノ色ヲ知ヲ得ベシ願ハ長ノ
勧メヲ幸トシテ依托セシモ必賢別ノ楷捌
ト為スノ意ナリ

彼　考ニ魯人一名ヲ備テ彼彼ニ交貢一人ヲ
　　蹟シ開港シテ貢納スルヲ義上トス
我　今度ハ兎角牛ニテ開港ヲ要スル丈ケノ相応ヲ
　　持来ラス
彼　如何ニハ卑ニ義法難ハ遠角ナリ然レトモ
　　年ニ百ダース乃至千ダース位ナラン
我　一種ノ相応物出ノ為メニ四航スルヲ得ス蒸法ハ
　　欲ダース蒸熱或ハ何程年ト云フガ如ク移シ
　　度角シ相応ヲ取築メ一般ノ私ニ接載スル丈ケ
　　簡易ニアラサレバ容易ニ難シ
彼　蒸汽ノ法フシテ苦シ美幸利製モ輸入スレハ
　　法フシテ石炭ナリ南港ニテハ高ク弱キヲ好
　　レリ

我　札幌蝦夷ニ法弱二様アリ今四ノ分ハ日耳曼人
　　冷寒ニラーケルヨリ少々強ケレハ弱性ノ者ヲ持
　　被セリ
彼　異シテ然レバ遠角ナリ
我　々度位相ヲセシハ如何ナル方法ヲ以テ事相ヲ為セ
　　ハ遠角ナリト思ヒ度セラルヽヤ
彼　開港シテ日本人ヲ全人トナシ採用スベキ魯人
　　ヲ雇役シテ強強セラルレハ可ナラン
我　将来貴樹ノ見込相立タル上ハ開拓スルモ可
　　ナリ此四ハ唯見本ノミヲ持越タレハ開港ノ
　　場合ニハ到難タカルベシ
彼　魯人ヲ雇役スルモ被ヲナス者ノ数多ナレ
　　備後ハ容易ニ為ス為ヘシ事相ノ上ハ再考ノ上

明後日再ト尋ク訪スベシ

九月十日受領局長ノ命ニ依テ其屋敷ニ赴キ本枝ヲ呼出セシ概略

(我) 丸ヲ駆ハ勇港ニ必用ナル寸尺ヲ第テ勇港主多ノ家間人ヲ以テ侍用セシニ必要ノ物ナルヤ否ヤ細キ丸ヲヲ携乃帯セリ

(彼) 其本ノ丸ヲハ何ニシテ用ヲ為サズ勇港ニ用ユベキ本枝丸ヲハ大ナルモノニテ未ダ丸後検掛(ゼ)ル(我ハ私ノ丸ハ)ヲ去サニサーゼシ(我七天)以上ノ者ヲ以テ出来必用セリ

(我) 柩ハ如何

(彼) 必用ノモノナリ本港ニハ未タ用ヒタル者ナシ

開拓使

故ニ價格洋ナラス瓦ハ色フシテ或ハ切焼ノ好ミ為セサルヘシ

我 尚分ニテ必需ノ板木ハ何程ノ数ナルヤ

彼 板ト造尚セルモノハ松杉ノ数ナリ去ノ尺度ヲ善トス

長サ　二サーゼン

巾　九梅

厚サ　弐梅

右板類ハ一家ヲ低ルニ大抵弐千枚ヨリ二千枚ヲ用ユ價ハ時ミ高低アレトモ一枚元一ルーブル乃至一ルーブル半ナリ或ハ七拾ぺーキノ低價ニ至リ佛人ファーブルヨリ蒼紙商ノ買取ル迄限ハ六十日コペーカナリ

又左ノ寸尺板モ必需ノモノトス

長サ　二サーゼン

巾　七梅ヨリ八九梅ニ至

厚サ　一梅

右板節一ハ天井及ヒ壁數ノ裏板ニ用ユ節二ハ外部ノ裏板ニ用ユ本質ハ前ニ同シ

右壁今ノ相場六拾コペーカ位ナリ而シテ此板ハ片面鉋ヲ掛ケ節弐等ノ如クスベシ

長　二サーゼン位

巾　六梅

厚サ　一梅強

此板ハ松杉ノミナラス何板ニテモヨロシト雖モ樺ノ種類ハ宜シカラス見本横挂ノ類

ヲ最良トス

長サ　三サージェ

巾　四梅ヨリ四梅半ニ至ル

厚　一梅半

裏板ハ桐板松ノ類ヲ良トス

家具板

第一能テ知ルベシ

(我)裏板ハ木目ノ奇麗ナルモノモ半フナラシ

(彼)本国ハ横別横ニ及バス

(我)「テーブル」「イス」ノ等ハ入用ナキヤ

(彼)用ナシ縦令持来トモ雷用僅ニナリ

(我)瓦ハ重ト云モ日本ニテハ従来此瓦ヲ以テ家板

瓦トスル事ニ慣ルヤ否ヲ御指アリタシ板類見本ヲ悉皆第出スベシ御指ノ上日本貿易事務敏く致ス為アリタシ

(彼)尚此ニテ瓦ヲ用ユルコアレトモ少ナシ(現ニ日本風ノ瓦化石造家根瓦ヲ置クルモノアリ)極及ビ金板ヲ以テスルモノ多シ

(我)石灰類ハ如何

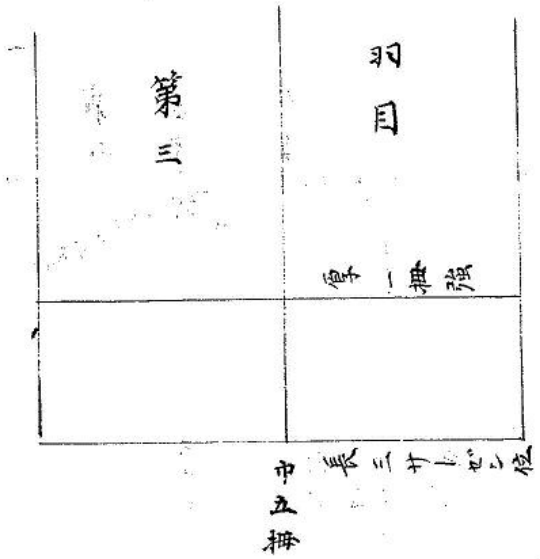
(彼)アラバストルヲ用ユ(石ヲ焼テ細粉トナシ水ニ混ズレバ石膏ノ類ニ成ル)

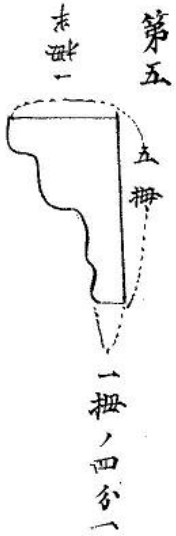
(我)明後日板木ヲ外石灰粘化石等ヲ送ルベシ急ヲ要セザルヲ付強ノ上諸品アリタシ板木等ハ雖美麗ニ初ンマデ名称ヲ詳記シテ送致スベシ

第一

第二

比面鉋ヲ用ユ





日本國產石炭試驗ノ諸文

淺岸ヲ落漁隱及ヒ日漁船ニ於テ今回試驗
實施セシニ當府ノ御船ヲ乘スル私用ニ遣意スト雖
ヒ二日間餘ノ航海ヲ終スル能ハス船ニ借用スル能ワス
何トナレハ屬ニ竈内ニ燒鑛スル凝塊ヲ挑除セザルベ
カラサルヲ以テ運中ニ炎ノ蒸氣發カヲ保持ス
ル能ワス且ツ其挑除ヲナスカ為メニ多ク人夫ノ
徒勞ヲ費サルヲ得ス又淺岸ヲ燒用スル淺船
ノ運ハ密ト横害スルニ如ンナリ

一千八百七十八年九月十六

蘭領東印度政府士官中尉

乙第百拾四号

養蚕條例施行ノ義上申

蚕種原紙規則等廃止ノ義本年肆拾壱号ヲ以テ御布告相成候處當使管内ノ義ハ蚕業ニ従事スル日尚浅ク人民未タ其術ニ熟セサル力為ノ明治八年甲第貳拾四号伺済ノ旨趣ニヨリ専ラ該業誘導ノ折柄ニ付當分別紙ノ通従前ノ規則ヲ更正シ管内ヘ布達致置候條此段上申候也

明治十年十月廿日　開拓長官黒田清隆

太政大臣三條実美殿

開拓使